

特別賞

命の水

芝小学校 五年 高堂七歌

テレビのチャンネルを変えると小さい女の子が映った。バケツのような箱にごった水を入れて運んでいた。わたしは、きつと洗たくでもしているのだろうと思った。テレビでは、女の人がその女の子にインタビューをしていた。

「この水は、わたしたちが一日家で使う大切な水です。家まで40分かけて運びます。」と笑顔で言っていた。わたしはビックリした。こんなよごれた水を飲んだり料理に使うこと、こんなに少ない水が一日分だということに！。

そして、私は日本人が一日に使う水について調べてみた。わたしたちが、トイレやお風呂などに使っている水を合わせると一人一日約240リットルにもなることが分かった。世界では9億人もの人が、安全な水を使うことができないそうだ。

もしよごれた水を使っている国の人が、日本のようにたくさんきれいな水を使えるようになったら、どうなるんだろうと思った。子供が学校に行かれるようになり、女の人が社会に出やすくなると思う。

あるイスラム圏の村で井戸の掘削事業を行ったとき、日本のスタッフが最初に村を訪れた時には女の人ははがしがつて出てこなかった。しかし、井戸が整備された後にもう一度訪問したときには、女の人たちがうれしそうにみんなの前に出てきたそうだ。理由を聞くと、

「井戸ができるまでは、水不足のために服を洗う余裕などなかったのです。よごれた服のままでは、はずかしくて人前に行くことができなかったのです。」と言ったそうだ。この話を聞いて、現場を経験してないと絶対にこのはずかしさは分からないと思う。

世界には一人一日当たり最低20リットルの安全な水が住居から1キロ以内にあるのが25パーセントにも満たない国がたくさんある。汚染水に起因した病気による死者数は、年間200万人にもものぼり、一日3900人の子どもが命を落としている。世界一給水率の低いエチオピアでは、人口8000万人うち安全な水を手に行けるのは、わずか2割なのだ。

水は人間が生きていく上で、必要不可欠な資源だ。人間だけではない。動物も生物も、生きていくものは全て水がなければ生きていられない。今まで水の大切さを知らなかったわたしたちは、何とむだな使い方をしてきてしまったのだろう。私はこれから水を大切にしていきたいと思う。わたしは、わたしたちにできることを考えた。そして水不足になっている国をなくすために、ぼ金をすることと水の大切さを知ることが今、私たちが出来る大切な二つなのだと思う。